



令和5年9月1日
目黒区立第二上目黒保育園長

「今は昔の吉備(きび)の冠者(かじゃ)よ 真金(まがね)吹く吹く 吉備の国で
今は昔の吉備の冠者よ ぼっけぎょうさん 宝を産んだ～」

この夏、登降園の際にこの歌詞とともに威勢のいい曲、そして元気いっぱい踊る子どもたちの姿を目にした方も多いのではないかと思います。『うらじゃ』というこの曲は、岡山県岡山市にて行われる夏まつりの音頭に使用される楽曲だそうで、岡山県(吉備の国)に古くから伝わる鬼神『温羅(うら)』の伝説を元にしたものであり、名称もそれに由来するそうです。ペットボトルで作った鳴子は、子どもたちにとってうらじゃを勇ましく踊るために欠かせない道具となり、踊り終わると両手に持った鳴子を重ねて元の場所に戻し“今日も踊った 踊った”と満足気に次の活動へと移っていく姿が印象的でした。

保育方針の一つに「遊びの中に日本の伝統文化を取り入れる」を掲げていますが、取り入れた伝統文化を『伝承』していくには、見る力、聴く力、そして日々の生活を楽しみ、主体的に向かう力が大切だと感じます。うらじゃの曲が流れ、どこかのクラスが踊っていると引き寄せられるように保育室から出てきて見学していた子が、いつの間にか踊りの輪に加わるようになり、今では誰よりも構えのポーズが様になっていたりします。どれだけ興味を持って集中して見て聴いていたのだろうと感心しますが、生き生きと踊るようになった一番の要因は、体を動かす楽しさを知り、皆で踊る喜びを感じられたこと、そしてこの夏、うらじゃが特別な活動ではなく、いつでも踊れる環境があったからではないかと思います。

伝統文化は、人と人とが心を通わせ、つながることによって伝承されていくことを子どもたちの姿を通して学びました。園に一步入ると、今日も玄関が賑やかです。



引き渡し訓練
運動会幼児練習(3～5歳児クラス)
運動会総練習(2～5歳児クラス)

中旬 身体計測・避難訓練

おどらにゃそんそん♪ みんなで「うらじゃ」

幼児クラスの子どもたちが踊る『うらじゃ』の音楽が聞こえてくると、2歳児クラスの子どもたちが「あっ、何か聞こえてきたね」と興味津々です。初めのうちは格好よく踊るお兄さん・お姉さんの姿に圧倒されるように見えていましたが、見終わって保育室に戻るとブロックや積木を両手に持ち、鳴子に見立てて「うらじゃ うらじゃ」と踊り始めています。カウントを取りながら膝立ちになるポーズが印象的だったようで、同じような姿勢になって楽しんでいました。やがて保育室で踊るだけでなく、幼児クラスと一緒に鳴子を手にして踊ってみたいと思う子が増え、大勢のお兄さん・お姉さんに混ざりながら楽しむようになりました。踊っている姿を周りの人達が喜んでくれたり、友達や保育士と一緒に気持ちよく体を動かせたことが自信や満足感につながったようです。



さ・か・な みたいになれるかな

3歳児クラス（さくら組）



初めてのプール遊びは緊張からスタートしましたが、リズム遊びで取り入れている『アヒル』や『馬』等の動きを真似したり、友達が楽しんでいる姿を見て気持ちを後押しされたりしながら「キリンになりたい」「次はカバになる」と意欲的に遊んでいました。ワニ泳ぎをしていた時、水に顔をつけてプクプクさせている子がいました。その様子を見て、それまで水を怖がっていた子どもと同じようにプクプクしていました。やがて「おもしろいね」と数人で何度も繰り返すほど楽しんでいました。

プール遊びでは水の心地良さや面白さを感じるだけでなく、新しい発見がたくさんあったようです。一人ひとりが水に慣れていくペースを大切にしながら「楽しい」「プールって気持ちいい」という経験を重ねることができました。



4歳児クラス（すみれ組）

7月のプール遊び開始から色々な遊びを通して水に慣れ、慣れた頃にタイミングを見計らってビート板を出してみました。ビート板で浮く感覚を感じてほしいというねらいがあったのですが、最初はなかなか浮くことが出来ず、ひまわり組にやり方を聞いたり風呂用マットを使って泳いでみたりしながら「どうしたら浮くかな」と子どもたちと一緒に考えました。何度も繰り返すうち、ビート板をつかみ、足を曲げてプールの壁を勢いよく蹴ると前に進むことが出来ました。ある子がビート板で進んだ距離を振り返り「見て、こんなに長く進めたよ」と教えてくれます。保育士が「ええ、そんなに進めたの、すごいね～」と一緒に喜ぶととても誇らしげでした。「こんなことも出来るよ」と顔を水につけたり、力強くバタ足をしてみたり、周りの子ども出来るようになったことを自信をもって披露していました。

友達と一緒に色々な泳ぎに挑戦したり、浮いたり前に進むにはどうしたら良いか等、クラス全員で考える機会も多い夏でした。



5歳児クラス（ひまわり組）

ある日、クラスにある『およぐ』という絵本を見た子が「今日は潜ってみる」と挑戦する姿がありました。絵本を見たことで“顔を水につけて泳ぎたい”という思いから“できそう”という気持ちになれたようです。その姿を見て「ぼくもできるよ」と次々と顔つけに挑戦する子がいました。顔をつけて泳げるようになると、そこから色々な泳ぎ方を試してみる姿が増えました。ビート板を使って泳ぐことや、腕を伸ばして蹴伸びのコツをつかむことで浮く感覚がわかると「これが泳げるってことか」と思わず口にする程楽しさを実感できたようです。『イルカ泳ぎ』と称して少し高いところに立ち、指先からゆっくりと水に潜っていく泳ぎ方も楽しんでいました。プール活動後は「たくさん泳いだからお腹がすいた～」と昼食をすすんで食べています。泳げるようになった喜びが食べる意欲にも結び付きました。

プールを通じて自信を持てるようになったことで、毎日の生活に対しても意欲的に向かう心の成長が見られます。

